

平成22年10月吉日

技術移転に係わる機関・部門

関係者各位

独立行政法人 科学技術振興機構
鳥取大学 産学・地域連携推進機構
中国地域産学官連携コンソーシアム

技術移転に係わる目利き人材育成研修会（鳥取開催）ご案内

拝啓 秋涼の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

独立行政法人 科学技術振興機構（JST）では、産学官の連携を促進する人材の養成および地域における科学技術の円滑な展開に対する目利き能力の向上とコーディネート機能強化のために「技術移転に係わる目利き人材育成研修プログラム」を策定し、研修会を実施してまいりました。第三期科学技術基本計画では、知の活用や社会還元を担う多様な人材の養成を掲げ、科学技術の成果を知的財産として戦略的に取得・活用できる人材、技術と経営の双方を理解し研究開発を効果的に市場価値に結実させる人材の創出を目指しており、これを受け、先進事例に学ぶ、より効果的なプログラムの策定に注力しております。

さて、この度 鳥取大学産学・地域連携推進機構、中国地域産学官連携コンソーシアムとの共催により標記の研修会開催日程が確定致しましたので、下記の通りご案内申し上げます。ご参加いただきますとともに、関係の皆様にご案内賜りますようお願い申し上げます。尚、平成22年度の研修会の運営は、財団法人 全日本地域研究交流協会（JAREC）へ委託しております。

敬具

記

【プログラム概要】

研修プログラムは、1日間で行われ、下記で構成されています。

【講義】

ビジネスモデルの考え方

【グループ討議】

参加者で“二十世紀梨の有効活用”のテーマのビジネスモデルを討議する

*詳細は、別添タイムテーブルをご参照下さい。

【講師紹介】



橋詰 徹

1979年 自動車機器メーカー設計開発部から日本能率協会コンサルティングへ入会

2004年 日本能率協会コンサルティングを退職、個人コンサルタントとして独立
 現在、(株)イノベーションマネジメントコンサルティング 経営コンサルタント(嘱託)
 北陸先端科学技術大学院大学 特別講師
 千葉大学園芸学部大学院 MOT非常勤講師



藤川 昇

1966年 新技術開発事業団(現:科学技術振興機構)入団 大学等の研究成果の技術移転、基礎研究(創造科学技術推進事業部長等)の推進や日本科学未来館(事務総長)の立ち上げを行う。

現在、科学技術振興機構 産学連携アドバイザー フジ経営システム研究所 代表

【募集要項】

1. 研修日程、募集人数 :

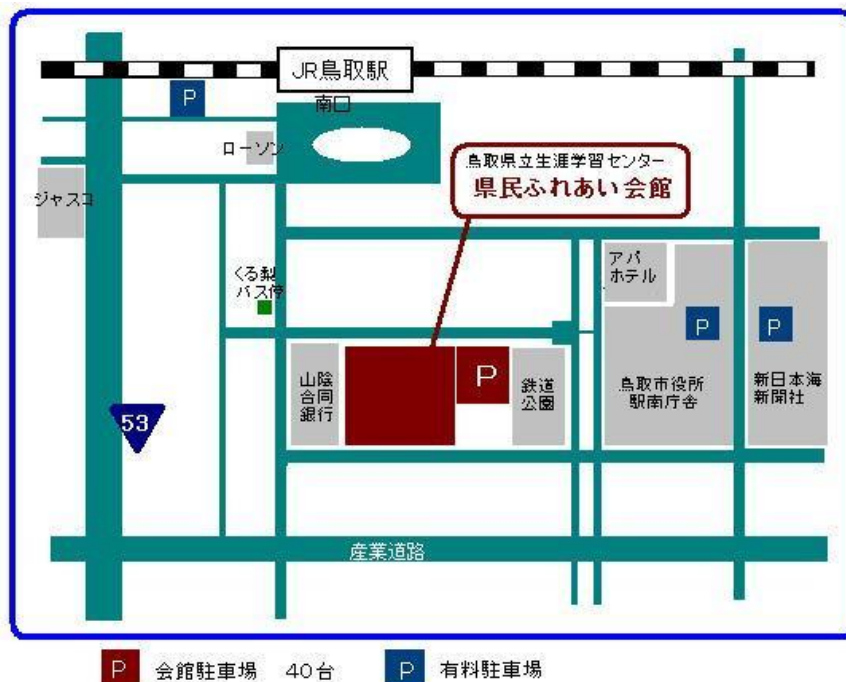
日程	募集人数
H23年 2月4日(金)	20名

*詳細は、別紙プログラムをご参照下さい。

2. 研修場所 : 県民ふれあい会館 4F 中研修室 1

〒680-0846

鳥取市扇町2-1番地 TEL : 0857-21-2266



3. 研修費用 : 無 料 *交通費、宿泊費等については各自でご負担願います。
4. 申込方法 : 参加希望者は、別添の申込書に記入し、事務局へ E-mail にてお申込み下さい。
5. 研修参加申込み・申込みに関するお問合せ :

財団法人 全日本地域研究交流協会 目利き人材育成研修会 事務局
馬場 裕二、竹永 聡子
〒110-0008 東京都台東区池之端 1-1-15
TEL : 03-3831-5911 FAX : 03-3831-7702
E-mail : chiikil0-tottori@jarec.or.jp

6. J S T 「目利きフォーラム」の登録について

J S Tでは、研究成果の社会還元を推進する人的ネットワークの構築を目的とした「目利きフォーラム」を運営しております。これは、インターネット上にネットワークシステムを構築し、技術移転にかかわる意見交換や技術移転活動における諸問題の解決の場としての活用を目指しています（詳細は別紙をご参照下さい）。

<参加資格>	本研修プログラム参加者
<参加方法>	事前の登録が必要
<登録料>	無料

本年度より、研修に参加されました方は参加終了後、原則として「目利きフォーラム」への自動登録が行われます。登録が不要の場合は、研修申込書の該当箇所（チェックボックス）にチェック をご記入くださいますようお願いいたします。

7. 研修プログラム全般に関するお問合せ

独立行政法人 科学技術振興機構 イノベーション推進本部 産学連携展開部
産学連携担当 : 岩本 泰典、芳賀 健一
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3
TEL : 03-5214-7993 FAX : 03-5214-8399

※※※ お申込みの前にご一読ください ※※※

本研修は、20名程度を予定しております。参加希望者が多い場合には、所属機関、地域等に偏りのないよう調整させていただきますので、ご了承のほどお願い申し上げます。

なお、受講の可否についてはメールにてお知らせ致します。

プログラム構成上、一部（半日）の参加ではなく、終日を通して参加出来る方を対象とさせていただきます（途中退出はご遠慮ください）。

また、本研修は参加型のプログラムであり、大学・研究機関等からの技術移転を通しての技術の実用化やそのイノベーションシステム等に対する貢献意欲をお持ちの方々のご参加をお待ちしております。特にグループ討議では、技術移転に直接的に関わる方や事務部門として間接的に関わる方など、さまざまな方が参加される中で、活動事例の共有や課題解決のためのヒントが得られるような双方向コミュニケーションを重視した研修を意図しており、各参加者に必ず発言の機会があります。また、参加者間の積極的な交流を期待しています。

参加者には、事前に、グループ討議のグループ分けのための業務経験等に関する簡単なアンケートの他、別途事例研修の準備をお願いいたしますので、予めご承知おきください。

<本研修での個人情報利用目的について>

研修に申込み、または参加頂きました皆様の氏名、所属、役職、住所、TEL、FAX、E-mailアドレス等の情報は、以下の目的においてのみ使用させていただきます。

- ① 研修に使用する事前課題、アンケートについての事務連絡管理
- ② 研修を効率的に進めるための受付名簿等研修事務管理
- ③ 研修を効果的に進めるための各グループ討議における区分け管理
- ④ 研修者のネットワーク構築のための参加者名簿作成と配布
- ⑤ J S T 「目利きフォーラム」への登録
- ⑥ 研修事後アンケートによる研修効果の分析把握とプログラムの改良計画
- ⑦ 今後の「技術移転に係わる目利き人材研修」計画情報の提供
- ⑧ 当財団が委託を受けている産学官連携に関連する情報の提供
- ⑨ 当財団が実施している研修・研究交流事業に関連する情報の提供
- ⑩ その他、産学官連携に関わる有益と判断される一般情報の提供

なお、今後、上記①～⑩に関する情報提供を不要と思われる方は、「技術移転に係る目利き人材育成研修」事務局宛にご連絡をお願いします。

財団法人 全日本地域研究交流協会

技術移転に係わる目利き人材育成研修プログラム運営 平成22年度研修（地域コース：鳥取開催）タイムテーブル

研修会場： 県民ふれあい会館 4F 中研修室1 <http://fureaikaikan.jp/akusesu.html>
鳥取市扇町21番地 TEL: 0857-21-2266

開催日時： 平成23年2月4日（金） 10:00-17:30

（講師名：敬称略）

課程・講師名		日程	募集	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
地域：鳥取開催 “未利用地域資源の有効利用”のビジネスモデルを策定する 橋詰 徹 （株）イノベーションマネジメントコンサルティング 藤川 昇 JSTイノベーション推進本部 産学連携アドバイザー 加藤 優 鳥取大学 産学・地域連携推進機構 中国地域産学官連携コンソーシアム産学官連携プロデューサー 齋藤 仁志 JSTイノベーション推進本部 産学官イノベーション創出拠点推進部 部長 【挨拶】菅原 一孔 鳥取大学 産学・地域連携推進機構 機構長・教授		2/4 （金）	20名	集合 受付	開催挨拶・事務局説明	ビジネスモデルの考え方 （橋詰） ビジネスモデルを検討していくうえでの基本となる 1. 誰に価値を提供するか 2. どのような価値を提供するのか 3. その価値をどのように提供するかに関して学ぶ。併せて、事業開始にあたり必要な経営資源をどのような動機付けのもとに集め、提供する価値に対してどのような収益モデルで対価を得るか、というビジネスモデルの勘所を概説する。	昼食	地域産学官共同研究拠点整備事業について （齊藤） JSTが開発している拠点施設を活用した新たなネットワークづくりを概説する	技術概要紹介 （加藤） 鳥取県における梨の利用概要と新規活用方策を紹介する	グループ実習： “二十世紀梨の有効活用”をテーマとしたビジネスモデルの策定 （橋詰・藤川） 鳥取県の特産物である“二十世紀梨”をテーマに、この商品をどのようなお客様に対して、どのように加工して、どうやって提供していくのかという、実践的なワークを行う ＊演習「“二十世紀梨の有効活用”をテーマとしたビジネスモデルの策定」 ・ビジネス候補の優先順位付けを行い、ターゲットを絞る ・SWOT分析による“事業成功の鍵”（KFS）の抽出 ・ビジネスモデルのベース（誰に・どのような価値を・どの様に）を検討する			発表質疑 各グループが討議結果を発表し、質疑を行うとともに、先生方からのコメントをいただく （解散）	